






# 都市戦略部 成果報告

都市戦略部長 桑原 雄二

## 部局達成度

				
2	8	-	3	4

## 総括

令和3年度は、北陸新幹線福井駅や高架工事が順調にすすむなか、駅の発車メロディーや東西出入口の名称（通称）も決まり、令和6年春の福井開業を確信できたところです。

はじめに、福井駅周辺の取組として、福井市観光交流センターや市街地再開発事業などを計画通り進めるとともに、新たなにぎわいの創出の一環として「恐竜」の仕掛けや「ふくみち」の公共空間の再構築の提案などを行い、市民の方はもとより来街者の方にも駅周辺の魅力と賑わいを感じていただける取組ができました。また、福井県、福井商工会議所と本市で組織する県都にぎわい創生協議会において、福井駅周辺の新幹線開業準備と将来のまちづくりにおける官民連携についての活発な議論が展開できたところです。

次に、公共交通については、並行在来線開業に向けて機運醸成を図るとともに、経営計画を策定し、駅周辺の機能拡充や新駅設置など利用促進につながる取組を行ってきたところです。また、えちぜん鉄道の地域公共交通計画やJR越美北線のアクションプログラムの策定、福祉車両を活用した新たなフィーダー交通への取組など第2次福井市都市交通戦略を着実にすすめることができました。

最後に、デジタル社会の実現に向け、福井市ICT利活用推進計画を改め、新たに福井市DX推進計画と福井市DX推進計画実施計画（アクションプラン）を策定しました。今後これらの計画に基づき「DXの推進により みんなが豊かで快適に暮らすまち ふくい」の実現を目指し、取組を着実に進めていきます。

3年度の評価としては、コロナの影響により、十分な事故防止への啓発活動や来街者など人の移動の自粛などから、達成できなかった目標が17目標中、雨が4目標となりました。

来年度も引き続き、まちづくり、公共交通、デジタルトランスフォーメーションいわゆるDXの推進に向けて取り組みます。

## 組織目標ごとの達成状況

### I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺での取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりをすすめます

福井駅周辺の取組として、福井駅東口の観光交流センターの工事や管理運営の方針の策定など計画通り進めることができました。また、福井駅前電車通り北地区A街区の建築工事の着手、B街区の権利変換計画認可並びに福井駅前南通り地区の組合設立認可申請など市街地再開発事業についても計画通り進めることができました。

中心市街地の賑わいについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、集客力のあるイベント開催ができなかったことや、商業施設についても観光客等の県外客の減少により、令和2年度と同様にハピリンの入込客数や来場者数ともに目標に至りませんでした。今後は、ハピリンを中心に、新幹線開業に向けた機運を高めるイベントなど積極的な展開を図ります。

ウォーカブルなまちづくりについては、地区交通戦略の作成や福井城址周辺の歩行環境の改善を図ったところです。

### II. 福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりをすすめます

福井市都市計画マスタープランの目指すべき都市像の実現に向けて、都市計画制度の適正な運用を図るため、昨年度の福井都市計画区域に引き続き、嶺北北部都市計画区域の都市計画基礎調査を行いました。

また、地域拠点である美山駅周辺や越廼公民館周辺では、ワークショップや産官学が協働し施策を検討する地域拠点づくり専門会議を開催し、現状・課題等の共有や地域ニーズを把握することにより、地域のまちづくりに対する意識醸成、まちづくりへの機運の高まりがみられました。

都市計画道路について、整備率は向上しましたが、志比口開発線全線の供用開始には至りませんでした。今後は、志比口開発線が早期に全線供用できるよう努めます。

良好な景観づくりでは、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町との取組である広域景観形成のPR動画は計画通り作成できましたが、景観形成支援については目標達成には至りませんでした。今後は利用しやすい支援制度への見直しや積極的な制度のPRに努めます。

### III. 第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築をすすめます

二次交通の充実と利用環境・利便性の向上については、えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画やJR越美北線アクションプログラムの策定、福祉車両を活用したお買い物バスの運行などに取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、目標達成には至りませんでした。今後も都市交通戦略に基づく各種施策を進め、多くの人に利用される公共交通を目指していきます。

MaaSシステムの導入に向けては、嶺北11市町及び交通事業者にて勉強会を実施した結果、令和4年5月に「ふくいMaaS協議会」を設置することとなりました。今後、北陸新幹線福井開業時の本格導入に向けて実証実験を行うなど、更なる検討を進めていきます。

並行在来線の円滑な開業に向けては、10月の並行在来線対策協議会において経営計画の策定を行い、今後はこの計画に基づき、既存駅や新駅候補地の沿線住民の方々などからご意見を伺いながら利用促進策の取組を進めていきます。

自転車の利用促進については、鉄道駅の自転車駐車場や自転車の駅の整備を計画以上に進めることができました。

市営駐車場については新型コロナウイルス感染症の影響のある中、利用者のサービス向上に努め目標値に近い水準まで到達することができました。

#### IV. 第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策をすすめます

高齢者、障がい者、子ども等交通弱者の安全を確保するため、交通安全推進団体や関係機関と連携した交通事故防止活動や交通安全教室を開催し、交通安全意識の向上に努めました。

しかしながら、令和3年中の目標である交通事故死者数7人以下、年間重傷者数40人以下の目標を達成することができませんでした。

特に、死者数は12人中11人が高齢者であったことから、高齢者を交通事故から守る対策が急務であると考えます。

高齢者が夜間外出時の歩行中や第一当事者となる交通死亡事故が多発したことを踏まえ、来年度は、反射材の着用や運転免許証自主返納の啓発などに取り組み、高齢者の事故防止に努めます。

#### V. デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策をすすめます

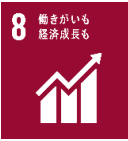


福井市ICT利活用推進計画が今年度で終わることから、将来目標となる「DXの推進によりみんなが豊かで快適に暮らすまち ふくい」を実現するため、令和4年度から8年度を期間とした「福井市DX推進計画」と、具体的な事業計画である「福井市DX推進計画実施計画（アクションプラン）」を策定しました。



また、市民の利便性の向上や業務の効率化を図るため、デジタル技術等を活用した行政手続のオンライン化、AI・RPAの利用推進、オープンデータの推進に取り組みました。



DX推進体制を確立するためには、全庁的な共通認識と機運醸成が重要であることを踏まえ、管理職を対象とした研修会やデジタル人材育成動画研修、課長補佐を対象としたEBPM・データ利活用研修によりDXへの理解を深めるほか、ExcelやRPA、Access、統合型GIS、ふくeねっと（電子申請システム）の操作研修により操作スキルの向上を図りました。




来年度以降、「福井市DX推進計画」及び「福井市DX推進計画実施計画」に基づき、ICTの浸透により人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させ、将来目標の実現を目指します。

I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺での取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりをすすめます




1	民間主体のまちづくりの推進	 8 働きがいも 経済成長も	 11 住み続けられる まちづくりを	達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>福井駅周辺を魅力と賑わいある市街地へ再整備するため、民間が主体となった再開発事業への支援を行い、商業、文化、医療、居住等の複合的な都市機能の充実を図ります。</p> <p>複数の再開発事業を確実にすすめるため、工事スケジュールの調整など事業者間の連携強化を図るとともに、事業のPRイベントを開催し、地元の理解と機運醸成に努めます。</p> <p>また、県、市、商工会議所で組織する県都にぎわい創生協議会での議論を踏まえ、更なる民間が主体となるまちづくりをすすめます。</p>				
取組内容	<p>○市街地再開発事業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井駅前電車通り北地区A街区：(建築工事着手 10月)</li> <li>・福井駅前電車通り北地区B街区：(事業計画・組合設立認可 4月、権利変換計画認可 3月)</li> <li>・南通り地区：事業計画、組合設立認可の申請 (3月)</li> </ul> <p>○再開発事業等連絡調整会議開催 (8月、3月)</p> <p>○再開発事業PRイベントの開催 (現場見学会 9月、講演会 11月)</p> <p>○県都にぎわい創生協議会 (6月、11月、2月)、エリアマネジメント部会 2回、新幹線開業準備部会 3回</p>				
<b>指 標</b>					
<b>計 画</b>			<b>結 果・成 果</b>		
<p>◎5 民間主体によるまちづくりへの支援件数 ：3件</p> <p>再開発事業等連絡調整会議の開催：2回以上 再開発事業PRイベントの開催：12月 県都にぎわい創生協議会、部会の開催(グランドデザイン策定)</p>			<p>◎5 民間主体によるまちづくりへの支援件数 ：3件</p> <p>再開発事業等連絡調整会議の開催：2回 再開発事業PRイベントの開催：9月、11月 県都にぎわい創生協議会、部会の開催(グランドデザイン策定)</p>		
成果・課題	<p>福井駅前電車通り北地区A街区市街地再開発事業については、令和6年春のグランドオープンに向け、解体工事と併行して10月に建築工事に着手し、基礎工事を進めています。</p> <p>B街区については、令和3年4月に県の認可を受け、再開発組合を設立し、権利変換計画・実施設計の作成を進め、令和4年3月に県から権利変換計画認可を受けました。</p> <p>福井駅前南通り地区市街地再開発事業については、準備組合において3月に組合設立認可申請を行い、組合設立後は、権利変換計画の作成に取り組みます。</p> <p>再開発事業等連絡調整会議については、各事業方針や進捗状況等の情報共有を図りました。来年度は、B街区の工事着工が見込まれることから、さらに連携強化を図りA街区の交通規制など、事業者間の調整を行います。</p> <p>県都にぎわい創生協議会やエリアマネジメント部会並びに新幹線開業準備部会については、計画通り開催することができました。来年度においては、今年度の議論を踏まえ、県都グランドデザイン策定に向けて、県、商工会議所等と協議を進めます。</p>				

2	<b>中心市街地の賑わい創出</b>		<b>達成度</b>	
<b>実行内容</b>				
<b>行動目標</b>	賑わいと交流の拠点であるハピリンを中心とした様々なイベントを開催し、周辺施設や関連団体と連携して、中心市街地全体で歩行者の回遊性を高めます。			
<b>取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハピリン5周年記念イベント（4月、5月）</li> <li>○ハピリン（にぎわい交流施設）指定管理者による指定事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ECHIZENクラフトステーション（11月）</li> <li>・幸せもちもち満腹祭（12月）</li> <li>・すまいるスケートハピリンク（12～2月）など</li> </ul> </li> <li>○ハピリンと近隣商業施設との連携イベント           <ul style="list-style-type: none"> <li>・アロハフェス（6月）自主事業</li> <li>・まちなか音楽祭（10月）指定事業</li> <li>・あげフェス（11月）指定事業 など</li> </ul> </li> <li>○歩行者・自転車通行量調査（7月、10月）</li> </ul>			
<b>指 標</b>				
<b>計 画</b>		<b>結 果・成 果</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ ハピリン入込客数：268万人（元年度） →157万人（2年度）→200万人（3年度）</li> <li>⑥ ハピリン来場者数：48万人（元年度） →24万人（2年度）→35万人（3年度）</li> <li>歩行者・自転車通行量（中央1丁目）： 35,781人（元年度）→34,876人（2年度） →36,000人（3年度）</li> <li>ハピリンと近隣商業施設との連携イベントの開催： 4件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ ハピリン入込客数：187万人</li> <li>⑥ ハピリン来場者数：28万人</li> <li>歩行者・自転車通行量：27,803人</li> <li>ハピリンと近隣商業施設との連携イベント開催： 4件</li> </ul>			
<b>成果・課題</b>	<p>ハピリン入込客数及び来場者数については、上半期は、開業5周年記念イベント等の開催により賑わい創出を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、「お肉マルシェ」など、中止や延期となったイベントもありました。下半期は、福井の地域資源をPRする「あげフェス」、新幹線開業をPRする「ECHIZENクラフトステーション」や毎年恒例の「ハピリンク」など集客イベントを実施しました。</p> <p>歩行者・自転車通行量については、7月と10月の平日と休日に調査を実施しました。7月は、福井県緊急事態宣言や福井県感染拡大特別警報が発令中で、悪天候も重なり、平均21,776人と通行量が少なかったものの、10月は警報も解除され、集客イベントも再開されたことから、通行量も平均33,830人と回復しました。しかしながら、平均27,803人と、昨年の通行量にも届かず目標を達成できませんでした。</p> <p>ハピリンと近隣商業施設については、「まちなか音楽祭」ではギャラリー元町や北の庄通りの店舗を会場にし、「ハピリンク」では商店街のレシートで割引券を発行するなど、連携イベントを4件開催しました。</p> <p>今後は、新幹線開業に向けた機運を高めるイベントなど、福井駅周辺における県内外への福井の魅力の情報発信に努めます。さらに、賑わいと交流の拠点「ハピリン」を中心に様々なイベントを開催し、近隣商業施設や商店街と連携して、中心市街地の賑わい創出と回遊性の向上に努めます。</p>			




3	居心地がよく歩きたくなるウォーカブルな まちの推進		達成度	
<b>実 行 内 容</b>				
行動目標	<p>歩いて楽しいまちを創出するため、福井駅周辺の地区交通戦略を策定します。</p> <p>福井城址周辺の道路整備を継続して行い、周辺事業者と連携したイベントに取り組み、まちなかの観光資源の魅力向上を図ります。</p> <p>また、中核市として、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町の魅力ある自然、歴史、文化などの地域資源のPRや体験イベントを開催します。</p>			
	取組内容	<p>○地区交通戦略 地元意見交換会の実施（11月）、検討部会等の開催（7月、11月、12月）、都市交通戦略協議会（12月）、大臣認定申請（12月）</p> <p>○福井城址周辺道路整備 遊歩道整備工事（10月）、消雪散水管工事（10月）</p> <p>○福井城址回遊プロジェクト 4回開催（7月2回、9月、11月）</p> <p>○中心拠点の賑わい創出イベント「ふくい駅周辺謎ときスクエア」（7/21～8/31）</p>		
<b>指 標</b>				
<b>計画</b>		<b>結果・成果</b>		
<p>地区交通戦略の策定：12月</p> <p>福井城址周辺道路整備の推進：L=200m</p> <p>福井城址回遊プロジェクトの実施 （イベント開催）：4回</p> <p>④中心拠点の賑わい創出イベント実施：8月</p>		<p>地区交通戦略の策定：12月</p> <p>福井城址周辺道路整備の推進：L=200m</p> <p>福井城址回遊プロジェクトの実施 （イベント開催）：4回</p> <p>④中心拠点の賑わい創出イベント実施：8月</p>		
成果・課題	<p>地区交通戦略については、3回の部会と地元住民や商店街等との意見交換会を開催し、計画通り策定を行いました。「ふくみち」による道路空間における賑わい創出や、駐車場共通割引サービスの導入などの施策を位置付け、福井駅周辺エリアの交通の利便性を高めていきます。</p> <p>福井城址周辺道路整備については、請負業者と綿密な協議を行うなど、工程の進捗管理を行い、遊歩道整備工事及び消雪散水管工事を完了しました。福井神社、順化小学校前の道路幅員が拡張され、消雪も可能となったことから、年間を通して快適に歩ける環境が整いました。</p> <p>福井城址回遊プロジェクトの実施については、二の丸エリアのお堀周辺において、回遊イベントを4回開催しました。イベントに合わせたお堀を眺めるカウンターテーブルの設置により、城址東側の景観のPRを行い、東側エリアに関する市民の関心を高めることができました。</p> <p>中心拠点の賑わい創出イベントについては、福井駅周辺に設置した4つの宝箱探しを通じて、連携市町の地域資源をクイズ形式でPRするとともに、宝箱を中央公園や西武福井店等に設置し、各種イベントとの相乗効果や商業施設への回遊につながるよう配慮して実施しました。</p> <p>来年度も、地区交通戦略に基づき、城址周辺道路整備の進捗を図り、城址周辺の回遊性を高めることや、連携中枢都市圏における賑わい創出イベントの開催など、ウォーカブルなまちの実現にとりくみます。</p>			



4	北陸新幹線の建設促進			達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>北陸新幹線の工事がこれ以上遅れることなく確実に開業できるよう、国、県との連絡を密にし、連携して取り組みます。</p> <p>現在すすめている福井駅東口拡張施設（仮称：観光交流センター）については、福井駅舎と一体的な施設となるため、関係者と協議しながら計画的にすすめるとともに、本年度は施設の管理運営の方針を定めます。</p> <p>また、敦賀・大阪間については、令和5年度当初に着工するため早急に財源を確保し、大阪までの早期全線開業に関係機関と連携して取り組みます。</p>				
	取組内容	<p>○建設促進大会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸新幹線関係都市連絡協議会の開催（5月、10月）</li> <li>・福井市北陸新幹線建設促進協議会の開催（5月）</li> <li>・福井県北陸新幹線建設促進同盟会の開催（7月）</li> <li>・北陸新幹線建設促進同盟会の開催（7月、11月）</li> <li>・北陸新幹線早期全線開業実現大阪協議会と北陸新幹線関係都市連絡協議会による意見交換会の開催（2月）</li> </ul> <p>○建設促進の要望活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井市及び福井市北陸新幹線建設促進協議会の中央要望の実施（7月）</li> <li>・福井市の県要望の実施（7月）</li> <li>・北陸新幹線関係都市連絡協議会の中央要望の実施（8月、11月）</li> </ul> <p>○福井駅東口拡張施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新築工事請負契約の締結（6月）</li> <li>・建築工事着工（9月）</li> </ul> <p>○機運醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸新幹線工事見学会の実施（7月、3月）</li> <li>・北陸新幹線福井開業2年前イベントの実施（3月）</li> </ul>			
<b>指 標</b>					
<b>計 画</b>			<b>結 果・成 果</b>		
<p>①福井駅東口拡張施設（仮称：観光交流センター） 建築工事着工：9月 拡張施設の管理運営方針の決定</p>			<p>①福井駅東口拡張施設建築工事着工：9月 拡張施設の管理運営方針の決定 ・拡張施設の設置管理条例の制定：12月 ・拡張施設の指定管理者選定委員会の設置：1月</p>		
成果・課題	<p>鉄道・運輸機構の北陸新幹線建設事務局が福井市に新設され、工事の進捗状況等について密に連絡が出来るようになりました。毎月開催される工程・事業費管理連絡会等を通し、進捗管理を行っています。</p> <p>福井駅東口拡張施設（福井市観光交流センター）の建築工事は、9月に着工し、令和5年1月の竣工に向けて計画通り進んでいます。また、管理運営方法や利用料金等を定めるため設置管理条例を制定し、指定管理者制度の導入に向け選定委員会を設置しました。3月に指定管理者募集要項の配布を開始し、指定管理者選定の手続きを進めています。</p> <p>敦賀・大阪間については、環境アセスメントが一部遅れていますが、令和5年度当初の着工が実現出来るよう、関係機関と連携して国に働きかけていきます。</p>				

## II. 福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりをすすめます



5	適正な土地利用の推進	 11 住み続けられるまちづくりを	 17 パートナシップで目標を達成しよう	達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）の目指すべき都市像の実現に向けて、都市計画制度の適正な運用を図るため、昨年度の福井都市計画区域に引き続き、嶺北北部都市計画区域の都市計画基礎調査を行います。</p> <p>また、地域拠点である美山駅周辺や越廼公民館周辺において、住民、民間の事業者、大学等と協働し、地域の将来像や、その課題を見極めるための交通の社会実験などをとりいれたワークショップを開催します。</p>				
	取組内容	<p>○都市計画基礎調査（嶺北北部都市計画区域）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県・関係市町との事前協議（4～7月）</li> <li>・ 業務委託の契約（9月）</li> <li>・ 建築物（用途別・構造階数別）の現況図・現況調書の作成（3月）</li> </ul> <p>○ワークショップの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7/11 美山地区（第1回） 31名参加</li> <li>・ 8/1 越廼地区（第1回） 20名参加</li> <li>・ 10/30 美山地区（第2回） 22名参加</li> <li>・ 11/6 越廼地区（第2回） 14名参加</li> </ul>			
<b>指 標</b>					
<b>計画</b>			<b>結果・成果</b>		
都市計画基礎調査（嶺北北部都市計画区域）の実施 ワークショップ等の開催：4回			都市計画基礎調査（嶺北北部都市計画区域）の実施 ワークショップ等の開催：4回		
成果・課題	<p>都市計画基礎調査（嶺北北部都市計画区域）については、県・関係市町と連携しながら、協議、調整などを行い年度内に完了しました。今後は、都市計画制度の適正な運用を図るため、調査結果を基に土地利用動向などを踏まえた分析・検証、土地利用制限の検討等を行っていきます。</p> <p>地域拠点である美山駅周辺や越廼公民館周辺では、現状・課題等の共有や地域ニーズの把握、地域のまちづくりに対する意識醸成を図るため、ワークショップを開催しました。ワークショップには、多くの地域住民が参加し積極的な意見交換が行われ、中には県・福井大学共同開催の「交通空白地における公共交通の確保に関する講演会・交流会」への自主的な参加など、まちづくりへの機運の高まりがみられました。</p>				
	<p>また、産官学が協働し施策を検討する地域拠点づくり専門会議を2回開催し、ワークショップの内容を踏まえた取組や社会実験の案について、意見交換を行いました。</p> <p>今後も、産官学民協働のまちづくりによる持続可能なまちづくりをすすめます。</p>				







6	街路整備の推進			達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>まちの骨格となる幹線道路について、計画的に整備を進めます。 志比口開発線は、隣接する環状東線の混雑緩和と福井森田道路からの新たな交通流入に対応するため、今年度供用を開始します。</p>				
取組内容	<p>○志比口開発線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路築造工事 <ul style="list-style-type: none"> <li>L = 90m (6月着工、11月完成)</li> <li>L = 233m (9月着工、次年度へ繰越)</li> <li>L = 310m (3月着工、次年度へ繰越)</li> </ul> </li> <li>・用地補償 <ul style="list-style-type: none"> <li>契 約 1 件 (7月契約)</li> </ul> </li> <li>・移転補償 <ul style="list-style-type: none"> <li>契 約 1 件 (11月契約)</li> </ul> </li> </ul>				
<b>指 標</b>					
<b>計 画</b>			<b>結 果・成 果</b>		
<p>都市計画道路整備率：83.9% (元年度) →84.0% (2年度) →84.1% (3年度)</p> <p>志比口開発線の供用開始</p>			<p>都市計画道路整備率：84.2%</p> <p>志比口開発線の供用開始：令和4年8月(予定)</p>		
成果・課題	<p>志比口開発線については、一部区間の整備が完了しましたが、移転交渉が難航したことなどから、全線の供用ができませんでした。</p> <p>しかしながら、用地取得・工事を含めた事業の進捗率は約94%となり、来年度の事業完了に目途がつき、令和4年8月には全線供用開始できる見込みとなっています。</p> <p>都市計画道路整備率については、志比口開発線などの整備により、整備率は84.2%となりました。来年度は、引き続き、志比口開発線など整備中の路線の進捗を図ります。</p>				




7	<b>県都にふさわしい良好な景観形成</b>		<b>達成度</b> 
<b>実行内容</b>			
<b>行動目標</b>	<p>県都にふさわしい美しい街並みをつくるため、民間が行う良好な景観に配慮した建築物等の更新やまちの魅力向上に資する事業に支援します。</p> <p>また、福井らしい景観をつくり・育てるために、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携した広域的な景観の形成をすすめます。</p>		
<b>取組内容</b>	<p>○民間活力による県都にふさわしい景観形成への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1次募集 選定委員会（5月）、交付決定1件</li> <li>・第2次募集 申請なし</li> <li>・第3次募集 選定委員会（11月）、交付決定1件（3月申請者より取り下げ）</li> </ul> <p>○広域景観形成のPR動画作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越前海岸景観軸 完成・公開（12月）</li> <li>・旧北陸道景観軸 完成・公開（3月）</li> <li>・季節（秋）の動画 完成・公開（3月）</li> <li>・季節（冬）の動画 完成・公開（3月）</li> <li>・PR動画の活用に関する連携中枢都市圏構成市町との協議（11月）</li> </ul>		
<b>指 標</b>			
<b>計画</b>		<b>結果・成果</b>	
<b>③</b> 民間活力による県都にふさわしい景観形成への支援：8件		<b>③</b> 民間活力による県都にふさわしい景観形成への支援：1件	
<b>④</b> 広域景観形成のPR動画作成		<b>④</b> 広域景観形成のPR動画作成	
<b>成果・課題</b>	<p>民間活力による県都にふさわしい景観形成への支援について、1次募集では景観形成のための外観整備等のハード事業1件、2次募集では、いくつかの相談事案がありましたが、申請にいたりませんでした。3次募集では、ハード事業1件の申請があり、11月に選定委員会を開催して交付決定しましたが、コロナ禍などの影響による申請者の都合により、3月に取り下げとなりました。</p> <p>賑わい創出のイベント等を支援するソフト事業に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントそのものが減少し、申請がありませんでした。</p> <p>今後、コロナ禍でも感染リスクの低い野外イベントなどのソフト事業に関する補助メニューを活用していただけるよう制度の見直しを図り、支援件数の増加に努めます。</p> <p>広域景観形成のPR動画作成について、連携中枢都市圏の関係市町と協議しながら、越前海岸の東尋坊等を撮影した越前海岸「advent」、南越前町の宿場町等を撮影した旧北陸道「龍脈 旧北陸道の彩り」、コスモスや雪景色を撮影した季節映像「秋」、「冬」を制作し公開しました。</p> <p>公開にあたっては、ハピテラスの大型ビジョンや民放のテレビほか、関係市町の各施設でも放映していただきました。来年度も、新たな景観動画の作成を行うほか、今年度作成した動画を活用し福井の魅力を広く認知していただけるよう広報を強化します。</p>		



Ⅲ. 第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築をすすめます

8	<b>新</b> 選択性のある二次交通の充実と利用環境・利便性の向上		達成度	
<b>実行内容</b>				
行動目標	<p>公共交通相互のモビリティネットワークを充実し、「行きたいところにスムーズに行ける」交通環境を構築するために、フルデマンドタクシーの導入や、中心市街地の店舗と連携した運賃割引、越美北線沿線でのアンケート調査などを行います。</p> <p>また、地域拠点や乗継拠点における乗継ぎの利便性や待合の環境向上に向け、大型商業施設における案内サインの整備などを行います。</p>			
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○JR越美北線アクションプログラムの策定（3月）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿線住民へのアンケート実施（11月）</li> </ul> </li> <li>○越美北線利用拡大キャンペーン事業（10～3月）</li> <li>○えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画の策定（3月）</li> <li>○地域鉄道の利用促進、サービス水準の向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井鉄道「がんばれ！！福井のアスリート」ラッピング電車の運行（8～1月）</li> <li>・えちぜん鉄道、福井鉄道主要駅へのキャッシュレス自動券売機導入</li> </ul> </li> <li>○フルデマンドタクシーの試行運行開始（8月～）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井市南東地区（六条、麻生津、文殊、上文殊）で運行する乗合タクシーを統合</li> <li>・令和4年4月からの本格運行に向けたアンケート調査（11月）</li> </ul> </li> <li>○コミュニティバス「すまいる」路線バス化、通勤通学者に配慮したダイヤ見直し（10月）</li> <li>○危険なバス停の安全性確保に向けた対策の実施（9月～3月）</li> <li>○まちなか公共交通お買い物支援事業の実施（10月～）</li> <li>○安居地区で福祉車両を活用した予約制お買い物バス「あごころバス」を運行開始（3月）</li> </ul>			
<b>指 標</b>				
<b>計 画</b>		<b>結果・成果</b>		
⑬ 15, 16 公共交通機関の乗車人数： 895万人（元年度）→671万人（2年度） →800万人（3年度）		⑬ 15, 16 公共交通機関の乗車人数： 743万人（見込）		
成果・課題	<p>えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画や JR 越美北線アクションプログラムの策定、フルデマンドタクシーの導入や福祉車両を活用したお買い物バスの運行など、第2次福井市都市交通戦略の施策を着実に進めました。</p> <p>併せて、まちなかの店舗と連携した公共交通機関の運賃割引や鉄道主要駅へのキャッシュレス券売機導入、ラッピング電車の運行、10月から減便となった越美北線の利用拡大キャンペーン事業など、各種利用促進策やサービス水準の向上に取り組みました。</p> <p>その結果、公共交通機関の乗車人数について、通勤通学等の日常利用者はコロナ前に近い水準まで回復しましたが、観光等の非日常利用者はオミクロン株の影響もあって回復に至らず、目標は達成できませんでした。</p> <p>来年度は、引き続き地域鉄道の安定運行及び利便性向上を図るため、福井鉄道についても「福井鉄道交通圏地域公共交通計画」を策定します。また、JR越美北線の利用促進についても、運賃補助や利用啓発のための広報、沿線イベントなどを継続していきます。</p> <p>バスにおいては、令和4年度から2年間かけて地域公共交通計画の策定に取り組み、更なる利便性向上や効率化、交通弱者や高齢者の足の確保などに努めていきます。</p>			





9	<b>連携中枢都市圏におけるM a a Sによる 交通システムの構築</b>		<b>達成度</b>	
<b>実行内容</b>				
<b>行動目標</b>	<p>日常生活や観光において、その目的に応じたスムーズな移動を支援するため、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と協働してM a a Sの導入に向けた勉強会を行います。</p> <p>住民や観光客にとって便利で、公共交通の利用促進につながるM a a Sシステムの導入を目指し、今年度は導入のための実証実験の計画を作成し、令和5年度の本格導入を目指します。</p>			
<b>取組内容</b>	<p>○ふくい嶺北連携中枢都市圏公共交通ワーキングの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回勉強会（6月）</li> <li>・第2回勉強会（9月）</li> <li>・第3回勉強会、実証実験計画案の検討（2月）</li> <li>・第4回勉強会（3月）</li> </ul> <p>○M a a Sシステム実証実験の計画作成（2月）</p> <p>○ふくいM a a S協議会（仮）の設立準備（3月）</p>			
<b>指 標</b>				
<b>計画</b>		<b>結果・成果</b>		
<b>④</b> M a a Sシステム実証実験の計画作成：2月		<b>④</b> M a a Sシステム実証実験の計画作成：2月		
<b>成果・課題</b>	<p>嶺北11市町及び交通事業者が参加する勉強会を4回実施し、取り組むべきM a a Sの方向性や、令和4年度に行う実証実験の内容について検討した結果、来年度からは、大学、マスコミ、金融、商業、観光分野の方々も含めたオール福井の体制で取り組むため、5月に「ふくいM a a S協議会」を設置します。</p> <p>来年度は、M a a Sシステム導入に向けて、交通事業者の企画切符のデジタル化や、乗車券と観光施設の入館料等をセットにしたデジタルチケット導入など、実証実験に取り組む予定です。誰もが使いたくなるM a a Sシステムとするため、北陸新幹線福井開業時の本格導入に向けて、協議会での検討を着実に進めていきます。</p>			

10	並行在来線開業準備		達成度	
<b>実行内容</b>				
行動目標	<p>並行在来線の開業が遅れることによる新たな自治体負担が生じないように、県や沿線市町等と連携し取り組みます。</p>			
	<p>円滑な開業準備に向け、経営計画を策定するとともに、将来の利用促進につながる新駅の設置やパーク&amp;ライド駐車場の整備などの検討をすすめます。</p>			
取組内容	<p>○開業遅延に伴う負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国に対し、開業遅延への財政支援を要望（7月）</li> <li>・鉄道・運輸機構からの出資確定（3月）</li> </ul>			
	<p>○経営計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並行在来線対策協議会幹事会の開催（5月、8月）</li> <li>・並行在来線対策協議会の開催（10月）</li> </ul> <p>○利用促進策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新駅候補地沿線地区連合会長、公民館長等との意見交換（6～12月）</li> <li>・並行在来線開業に向けた説明会開催（12～2月）</li> <li>・並行在来線利用促進協議会の開催（3月）</li> <li>・小中学生図画ポスターコンクール開催（6～1月）</li> <li>・JR福井駅の親子見学会開催（10月）</li> </ul>			
<b>指 標</b>				
<b>計 画</b>			<b>結 果・成 果</b>	
<p>⑩ 経営計画の策定：10月 利用促進策の市民意向調査</p>			<p>⑩ 経営計画の策定：10月 利用促進策の市民意向調査</p>	
成果・課題	<p>開業の遅れに伴う新たな負担については、国への要望などを行い、自治体負担はなく、鉄道・運輸機構から全額出資することとなりました。</p>			
	<p>経営計画については、関係機関との協議などを経て、10月の並行在来線対策協議会において、経営計画を策定しました。今後はこの計画に基づき利用促進策などに取り組みます。</p> <p>利用促進策のうち、新駅の設置について、候補地沿線の地区役員等と意見交換を行い、地元の皆様から強いご要望を頂きました。来年度は沿線住民や企業に対するアンケートなどの実施や検討会を開催し、候補地の絞り込みを行います。</p> <p>その他既存駅については、駅周辺住民説明会の開催などで利用促進策に関するご意見を頂きました。今後も引き続き、沿線の地元の方々からご意見を頂き、並行在来線会社や関係機関と協議し、計画的に進めていきます。</p> <p>また、利用促進につながる並行在来線の機運醸成のため、図画ポスターコンクールや駅の親子見学会を実施しました。また、3月には新社名が内定し、来年度は本格会社へ移行することから、今後も会社とともに並行在来線の機運醸成を行っていきます。</p>			





11	自転車の利用促進と利便性の向上			達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>最寄りの鉄道駅への移動手段として自転車の利用を促すため、自転車駐車を整備し、利用環境の改善を図ります。</p> <p>また、安全かつ快適に自転車利用ができる環境づくりの一環として、新たな自転車の駅を設けます。</p>				
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鉄道駅自転車駐車の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ えちぜん鉄道中角駅自転車駐車場（9月）</li> <li>・ JR福井駅自転車駐車場 自転車ラックの一部分更新（1,034台分）（3月）</li> <li>・ JR福井駅西口再開発ビル（ハピリン）自転車駐車場 自転車ラック更新（155台分）（3月）</li> </ul> </li> <li>○ 「自転車の駅」の新規開設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越前水仙の里温泉波の華（越廼地区）（4月）</li> <li>・ GOTIステーション（清水西地区）（4月）</li> <li>・ サンステップ福井本店（経田2丁目）（8月）</li> <li>・ サンステップ福井南店（御幸4丁目）（7月）</li> <li>・ サンステップワッセ店（久喜津町）（8月）</li> </ul> </li> <li>○ 「自転車の駅」啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康フェアでの広報（12月）</li> <li>・ 市ホームページ等を利用した情報発信（随時）</li> </ul> </li> </ul>			
<b>指 標</b>					
<b>計画</b>			<b>結果・成果</b>		
<p>サイクルアンドライドの推進： 鉄道駅自転車駐車の整備1カ所 自転車の駅の新規開設：2カ所</p>			<p>サイクルアンドライドの推進： 鉄道駅自転車駐車の整備3カ所 自転車の駅の新規開設：5カ所</p>		
成果・課題	<p>鉄道駅自転車駐車の整備については、えちぜん鉄道中角駅に12台分の自転車駐車の整備を行い、自転車利用者の利用環境改善を図りました。</p> <p>また、福井駅周辺にある既存の自転車駐車場については、これまで自転車ラックの昇降時に大きな力を必要としていましたが、高齢者や女性の方でも容易に自転車の駐車が行うことが可能となるよう自転車ラックを更新し、駐輪環境の改善を図りました。（1,189台分）</p> <p>自転車の駅の新規開設については、当初予定していた越前水仙の里温泉波の華、GOTIステーションの2カ所に加え、これまでのPR活動の効果により、3カ所の設置要望があり、目標を上回りました。</p> <p>今後は、自転車利用者に快適に利用してもらえるよう「自転車の駅」の周知・広報に努めていきます。</p>				

12	市営駐車場の適正な運営		達成度 
<b>実行内容</b>			
行動目標	<p>適正で効率的な市営駐車場を運営するため、施設の修繕等を計画的に実施します。</p> <p>また、福井駅周辺での買物や土日祝日のイベント等で、市営駐車場を気軽に利用できるよう、他の駐車場事業者と連携した利用促進策に取り組みます。</p>		
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○祝成人「さくらのつどい撮影イベント」に対する無料サービス（4月）</li> <li>○土日祝日の30分無料化：大手（4月～）</li> <li>○共通駐車サービス券事業「ふくいまちPチケット」への参加：本町通り地下駐車場（6月～）</li> <li>○施設の修繕（9～1月）             <ul style="list-style-type: none"> <li>【大手駐車場】</li> <li>・料金計算機、発券機磁気リーダー交換</li> <li>【大手第2駐車場】</li> <li>・パレット横行駆動軸及び従動輪、安全柵修繕</li> <li>【本町通り地下駐車場】</li> <li>・エレベーター乗場敷居、ドアプロテクター可動柵修繕</li> <li>・リフト昇降チェーン及び扉用インバータ、ドアプロテクター駆動部修繕</li> </ul> </li> <li>○福井駅周辺イベントにおける利用促進事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井えきまえ感謝デー（10月）、ふくい桜まつり（3～4月）</li> </ul> </li> <li>○精算機のキャッシュレス決済対応：大手、大手第2駐車場（3月）</li> </ul>	
<b>指 標</b>			
<b>計 画</b>		<b>結 果・成 果</b>	
市営駐車場の駐車台数：53.9万台（元年度） →48.9万台（2年度）→56.8万台（3年度）		市営駐車場の駐車台数：52.0万台	
成果・課題	<p>市営駐車場を便利で安全に利用できるよう、適切な修繕を行いました。</p> <p>また、福井駅周辺のイベントや買い物時に利用しやすくなるよう、大手駐車場の土日祝日30分無料化や、共通駐車サービス券事業「ふくいまちPチケット」の本町通り地下駐車場への導入、大手・大手第2駐車場の精算機のキャッシュレス決済対応など、サービス向上及び利用促進策を実施しました。</p>		
	<p>その結果、市営駐車場の駐車台数は令和2年度に比べて約6%増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛が続いていることもあり、目標は達成できませんでした。</p> <p>来年度は、本町通り地下駐車場のエレベーターリニューアル工事を実施するなど、引き続き施設の適正な維持管理に努めます。</p> <p>また、「ふくいまちPチケット」の拡大（大手・大手第2駐車場）や休日イベントと連動した利用促進事業（大手駐車場）、ホテルとの連携（大手第2駐車場）、周辺企業への営業活動（本町通り地下駐車場）などに取り組み、更なる利用促進に努めます。</p>		

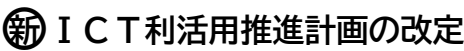


IV. 第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策をすすめます





13	 <b>高齢者と子どもの事故防止</b>			達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>交通事故による「死者数・重傷者数」を減らし、交通事故の少ない安全で安心なまちをつくります。子どもや高齢者を対象とした交通安全教育を充実するために、人材の育成に努めます。</p> <p>また、自転車の事故を防止するため、自転車通学の中学生を対象に正しい交通ルールの周知とマナーの啓発を行います。</p>				
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通安全推進団体等と連携した交通安全普及啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季の交通安全市民運動（春4月、夏7月、秋9月、年末12月）</li> </ul> </li> <li>○交通指導員による街頭指導活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要交差点における毎週金曜日の定例街頭指導活動、地区行事等における街頭指導活動（交通指導員152人、出勤回数延べ5,984回）</li> </ul> </li> <li>○高齢者や幼児・児童等を対象とした交通安全教室の実施（随時） <ul style="list-style-type: none"> <li>（交通安全教室 申込250回、開催154回、参加3,889人）</li> </ul> </li> <li>○小・中学校への交通安全啓発チラシ、動画の配布（7月）</li> <li>○中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>（灯明寺中学校（10月）・清水中学校（11月））</li> </ul> </li> </ul>				
<b>指 標</b>					
<b>計画</b>			<b>結果・成果</b>		
<p>交通事故死者数： 7人（元年）→11人（2年）→7人以下（3年）</p> <p>交通事故重傷者数： 80人（元年）→60人（2年）→40人以下（3年）</p> <p>交通安全指導者マニュアルの作成 中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動：2校</p>			<p>交通事故死者数（年次）：12人</p> <p>交通事故重傷者数（年次）：59人</p> <p>交通安全指導者マニュアルの作成 中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動：2校</p>		
成果・課題	<p>年間を通し、交通安全推進団体等と連携した交通安全啓発活動や各地区の交通指導員152人による街頭指導活動、交通安全教室などに取り組みました。</p> <p>しかしながら、令和3年中の交通事故死者数、重傷者数は、いずれも目標を達成することはできませんでした。</p> <p>交通事故死者数については、12人中11人が高齢者であり、夜間外出時の歩行中の事故や、高齢運転者が第一当事者となる交通死亡事故が高い割合を占めていることから、来年度は、外出時の反射材着用の推進や運転に不安を感じる方やその家族に対して高齢者運転免許証自主返納の啓発に努め、高齢者自身が加害者にも被害者にもならないよう事故防止の取組を強化します。</p> <p>コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、今年度も多くの交通安全教室が中止となりましたが、今後は作成した交通安全指導者マニュアル（DVD）を貸し出し、各施設等が市の交通安全教室と同様の教育活動に取り組む機会を増やしていきます。</p> <p>自転車ルール・マナーの啓発活動については、予定通り2校行いました。来年度も引き続き行い、子どもを交通事故から守るよう努めます。</p>				





14	 <b>新車に頼り過ぎない社会づくり</b>	 3 すべての人に健康と福祉を	 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>高齢者の運転による事故を防止するため、自身の運転能力を測るためのセルフチェックを呼びかけ、運転に自信のない方への免許の自主返納を促します。</p> <p>また、来街者がまちなかを快適に回遊できるよう、まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」の利用促進を図ります。</p>				
取組内容	<p>○高齢者運転免許自主返納支援事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の回数券等に加えレンタサイクル「ふくチャリ」利用券の提供を追加（4月）</li> <li>・各種媒体を利用したの広報、啓発（随時）</li> <li>・市民ホールへの啓発チラシ設置（（高齢者ワクチン接種申込待合所）5月）</li> <li>・市政出前講座（福井市遺族連合会）（11月）</li> </ul> <p>○まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」の利用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新ポート開設（福井駅西口地下駐車場）（4月）</li> <li>・フェイスブック、各種広報媒体等を利用した情報発信（随時）</li> <li>・カーフリーデーイベントでのパネル出展（9月）</li> <li>・商業施設や福井駅へのポスター、リーフレット掲示、すまいるバスへの車体広告</li> <li>・CM放映（10月～）</li> <li>・健康フェア、環境展でのパネル展示（12月、1月）</li> </ul>				
<b>指 標</b>					
<b>計 画</b>			<b>結 果・成 果</b>		
<p>⑥⑥ 高齢者運転免許証自主返納者数（年次） ：990人（元年）→869人（2年）→1,000人（3年）</p> <p>ふくチャリの利用回数（年度）：7,240人（元年度）→3,686回（2年度）→5,000回（3年度）</p>			<p>⑥⑥ 高齢者運転免許証自主返納者数（年次） ：792人</p> <p>ふくチャリの利用回数（年度） ：5,051回</p>		
成果・課題	<p>コロナ禍のため、例年行っていた高齢者交通安全大会や警察と連携した運転免許自主返納のイベント等が中止になる中、高齢者に対して運転免許証の自主返納の啓発については、ワクチン接種申込待合所でのチラシ設置や老人クラブの会報誌への掲載、市の出前講座など、様々な機会をとらえて活動を行ってきました。しかしながら高齢者運転免許証自主返納者数は792人と目標に達することはできませんでした。</p> <p>令和3年中、交通事故死者数のうち高齢運転者の過失によるものは5割で、過去5年において最も高い割合でした。高齢者運転免許保有者数は、増加傾向にあることから、来年度は、高齢者の運転免許自主返納の周知・啓発を行うとともに、5月から始まる安全運転サポート車限定免許制度のPRに努めます。</p> <p>まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」の利用回数については、ポートを1箇所増設するなどの利用環境整備により、目標を達成することができました。来年度は、ICTを活用したシェアサイクルの整備を進め、市民や来街者にとって身近で便利な移動手段であるということを周知・広報し、利用促進に努めます。</p>				

V. デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策をすすめます

15			
<b>実行内容</b>			
<b>行動目標</b>	<p>今年度は福井市ICT利活用推進計画（平成30年度～令和3年度）の最終年度であり、今後の自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）に向けて計画の改定を行います。</p> <p>計画の改定にあたり、国の自治体DX推進計画（令和3年1月～8年3月）や自治体DX推進手順書を参考に、ICTの利活用による市民の利便性の向上や業務の効率化を計画的に推進していくための将来像と目標を設定します。</p>		
<b>取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回 福井市情報化推進会議の開催（5月 概要説明）</li> <li>○第1回 福井市ICT利活用推進委員会の開催（6月 概要説明）</li> <li>○各所属に対し計画への掲載事業の調査及び協議（7～8月）</li> <li>○第2回 福井市ICT利活用推進委員会の開催（9月 骨子案の作成）</li> <li>○第2回 福井市情報化推進会議の開催（9月 骨子案への意見聴取）</li> <li>○第3回 福井市ICT利活用推進委員会の開催（10月 素案の作成）</li> <li>○第3回 福井市情報化推進会議の開催（10月 素案への意見聴取）</li> <li>○議会説明（11月 素案についてのパブリック・コメントの実施について）</li> <li>○パブリック・コメントの実施（12月 素案への意見聴取）</li> <li>○第4回 福井市情報化推進会議の開催（2月 最終案への意見聴取）</li> <li>○第4回 福井市ICT利活用推進委員会の開催（3月 計画の決定）</li> </ul>		
<b>指 標</b>			
<b>計画</b>		<b>結果・成果</b>	
ICT利活用推進計画の改定		福井市DX推進計画の策定	
<b>成果・課題</b>	<p>外部委員で構成する「情報化推進会議」及び関係部局の次長等で構成する「ICT利活用推進委員会」をそれぞれ4回開催し、また、パブリック・コメントも実施した上で、次期計画として「福井市DX推進計画（令和4年度～8年度）」を策定しました。</p> <p>計画では、将来目標である「DXの推進により みんなが豊かで快適に暮らすまち ふくい」を実現するために、3つの基本目標、15の取組分野、48の取組事項を掲げています。</p> <p>また、計画の取組事項を推進するための具体的な事業計画として「福井市DX推進計画実施計画（アクションプラン）」もあわせて策定しました。この計画では、個別の事業ごとに「目指す成果」や「数値目標」などを設定しています。</p> <p>来年度からは、これらの計画に基づきICTの浸透により、市民の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させるDXに着実に取り組んでいきます。</p>		

16	 <b>自治体DXを推進するための取組</b>			達成度	
<b>実行内容</b>					
行動目標	<p>国の自治体DX推進計画（令和3年1月～8年3月）に基づき、業務の効率化を図るため、行政手続のオンライン化、AI・RPAの利用推進、オープンデータの推進に取り組みます。</p>				
取組内容	<p>○オンライン化申請手続 19件追加          ・衆議院議員選挙関連の申請（1件）          ・入札関連の申請（7件）          ・介護保険関連の申請（11件）</p> <p>○AIチャットボット 6分野追加          ・新型コロナウイルスワクチン接種（4月）、ごみの出し方（12月）、防災・災害、税金（1月）、子育て、福祉・健康・保険（3月）          ・福井市公式ホームページ上でのAIチャットボット対応（12月）</p> <p>○RPA導入業務 10件追加          ご遺族サポートコーナー日次業務、統合型GISログオンログ送付業務、おくやみ新聞掲載データ作成業務、ふるさと納税納品書等作成業務、雪下ろし支援事業対象者課税判定業務、固定資産の現所有者登録業務、高額療養費自動償還業務、市県民税申告内容種別変更業務、支出負担行為兼支出命令入力業務、共有資産の代表者変更業務</p> <p>○オープンデータ 3件追加          指定自立生活援助事業所一覧、放課後児童クラブ一覧、油揚げ・がんもどき消費額一覧</p>				
<b>指 標</b>					
<b>計 画</b>			<b>結 果・成 果</b>		
<p>オンライン化申請手続：19手続（元年度）          →19手続（2年度）→25手続（3年度）          RPA導入業務数：5件（2年度）→7件（3年度）          オープンデータ数：111件（元年度）          →119件（2年度）→122件（3年度）</p>			<p>オンライン化申請手続：38手続          RPA導入業務数：15件          オープンデータ数：122件</p>		
成果・課題	<p>自治体DXを推進するため、行政手続のオンライン化、RPAによる定型業務の自動化、オープンデータについて取り組み、また、AIチャットボットの対応分野を大幅に拡充し、当初の計画以上に成果を上げることができました。</p> <p>申請手続については、国の「自治体DX推進計画」に重点取組事項として示されている手続については11手続を、それ以外の手続についても8手続をオンライン化できました。来年度は、重点取組事項の残り2手続のオンライン化を完了させるとともに、それ以外の手続についても優先順位を検討した上で、できるだけ多くのオンライン化に取り組みます。</p> <p>AIチャットボットについては、当初は「新型コロナウイルスワクチン接種」の追加のみの予定でしたが、新しい生活様式に対応するため、さらに5分野を拡充し、あわせて、市LINE公式アカウントだけでなく市ホームページ上でも利用できるようにしました。来年度も引き続き、市民の方が使いやすいサービスとなるよう内容の充実を図っていきます。</p> <p>RPAについては、新たに10業務に導入し、全15業務で削減時間合計は年間換算で1,318時間24分となり、導入前にかかっていた時間の46.2%が削減できました。来年度も、引き続き、RPAの導入効果を周知するとともにシナリオ作成支援や研修等を実施し、導入業務を増やしていきます。</p> <p>オープンデータについては、既存データの更新と併せ、他自治体の取組などを参考に新たに3件を追加しました。来年度も、多様化するニーズを踏まえながらオープンデータの充実を図ります。</p>				

17	デジタル人材の育成に向けた研修機会の創出		達成度 
<b>実行内容</b>			
<b>行動目標</b>	職員に対して、GIS研修やAccess研修を実施するとともに、国及び県が実施する統計や電子申請システムの操作研修等を活用し、デジタル人材の育成に向けて研修の受講機会を増やします。		
<b>取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総務省統計オンライン講座の受講 (4月:10人、7月:12人、10月:47人、1月:28人)</li> <li>○DX研修会の開催(※) (8月:87人)</li> <li>○Access作成研修の開催 (9月:11人、2~3月:5人)</li> <li>○新採用職員への統計基礎研修の開催(※) (9月:13人)</li> <li>○EBPM・データ活用研修の開催(※) (12月:57人)</li> <li>○RPAシナリオ作成研修の開催(※) (12月:6人)</li> <li>○デジタル人材育成動画研修の受講(※) (12~2月:34人)</li> <li>○統合型GIS研修の開催 (1月:14人)</li> <li>○Excel活用研修の開催(※) (3月:46人)</li> <li>○ふくえねっと(電子申請システム)操作研修の受講 (3月:19人)</li> </ul> <p>※ 当初計画に追加した研修</p>		
<b>指 標</b>			
<b>計画</b>		<b>結果・成果</b>	
研修回数：8回		研修回数：14回	
<b>成果・課題</b>	<p>DXを推進するため、全庁的な機運の醸成とともにデジタル人材の育成に向けて、当初の計画に加えて新たな研修を幅広く実施したことにより、目標を上回ることができました。</p> <p>新たな研修としては、管理職を対象としたDXの機運醸成を目的とした研修のほか、課長補佐を対象としたEBPMの推進を目的とした研修、実務者を対象としたRPAやExcelを活用するための研修などを実施しました。</p> <p>来年度は、新たに設置するDX推進リーダーを対象とした研修など、引き続き役割に応じた研修の実施に取り組み、デジタル人材の育成を図っていきます。</p>		